つるさき

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島2220
TEL 482-0097
FAX 482-0097
IP-phone
050-3318-1809
URL
http://www6.ocn.ne.jp/~turusaki/

古式に則り 神前結婚式

結婚式の我が国においての初見は、神話に登場する伊邪那岐命（いざなぎのみこと）と伊邪那美命（いざなみのみこと）の「国生み」に遡（さかのぼ）る。

平安時代には既に披露宴も催されていたようであるが、明治の頃までは結婚式は当家で行うことが通例であった。

明治三十三年大正天皇・貞明皇后が正装して宮中三殿で結婚式を行ったのを契機に、神前結婚式を望む声が広がり、東京大神宮が初めて神前式の儀式創設し、国民の間に広がっていった。

昭和三十年～四十年代にかけて当社でも、多くの結婚式が行われていたが、披露宴会場を併設したホテルの建設が進むにつれ、神社での結婚式が激減した。

しかし、近年古式に則ったその良さが見直され当社においても挙式の姿が見られるようになって来た。

（写真は今年四月、挙式のために拝殿へ参進する新郎新婦・親族）

吉備の国寺社巡り

山陽新聞社においては、昨年に続き県内の神社仏閣を紹介する「吉備の国寺社巡り」を企画している。

この企画は、県内を始め他県からの観光客にも、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古い歴史を持つ吉備の国・岡山の神社仏閣に参拝して、由緒ある歴史を体験していただくために、県内の由緒ある神社仏閣三十八寺社を選定したガイドブック（A5版六十四ページ／カラー）を県内の観光案内所等に置いている。

併せて「フォトコンテスト」を次の通り実施している。

◆テーマ

四季を通した岡山の神社・仏閣（対象神社のみ）及び周辺の風景等

◆応募締切

平成二十五年六月二十八日

◆応募方法

四切またはワイド四切

◆発表・展示

平成二十五年八月上旬

◆賞

最優秀賞一点　賞状・賞金五万円
優秀賞二点　協賛社賞　賞金五三万円
入選十点　協賛社賞
佳作三八点　賞金一万円・協賛社賞
協賛社賞

◆応募先

山陽新聞社広告本部「吉備の国寺社巡りフォトコンテスト」係
〒七〇〇―八六三四　岡山市北区柳町二―一―一

また、今回から「スタンプラリー」も次の通り開催している。

◆実施期間

平成二十四年七月一日～平成二十五年六月十四日まで

◆実施要項

期間中に対象寺社を巡って備え付けの応募台紙にスタンプを十五個集めて郵送。抽選で果物詰め合わせ、協賛社賞がプレゼントされる。

◆応募先

山陽新聞社広告本部「吉備の国寺社巡りスタンプラリー」係

当社も参加しており、ガイドブック等は拝殿にありますので、ご自由にお持ち帰り下さい。

38寺社を収録したガイドブック

神道Q&A

【質問】

参拝の際に鳴らす鈴の意味について教えて下さい。

【答え】

多くの神社には、拝殿の中央、ちょうど賽銭箱の真上あたりに、銅や真鍮製の大きな鈴が吊られており、この鈴に添えて麻縄や、紅白・五色の布などを垂らして、参拝者はこれを振り動かして鈴を鳴らし、お参りをします。

神社によっては神仏習合の影響により、鈴の代わりに鰐口が設けられている場合もあります。

社頭に設けられた鈴は、その清々しい音色で参拝者を敬慶な気持ちにするとともに参拝者を祓い清め、神霊の発動を願うものと考えられています。

また、巫女が神楽舞を舞う際に用いる神楽鈴も、社頭の鈴と同様の意味によるものです。古くは巫女が神楽を舞うことにより神懸りして人々に神の意志を伝えており、このために必要なものとされていました。

今日では巫女による神楽舞が優雅な形に定められ、神懸りというより神慮を慰めるものとしての意味合いが強くなり、神楽舞の後に参拝者に対しておこなわれる鈴振り行事は、祓い清めの意味を有するものということができます。

このほか、御守などの授与品に鈴が用いられるのは、魔除けや厄除け開運のためともいわれています。

『古語拾遺』には、天の岩屋にお隠れになられた天照大御神の心をひくために、天鈿女命が鈴を付けた矛を持って舞ったことが記され、宮中では天皇陛下が天照大御神を御親拝なされる際に、女性で祭祀を司る内掌典が、御鈴を鳴らして奉仕することがあるように、神事における鈴振りは今日まで重要な意味を持ってきました。

江戸時代の国学者である本居宣長は自らの号を「鈴屋」と称して、「鈴の屋とは、三十六の小鈴を、赤き緒にぬきたれて、柱などにかけおきて、物むつかしきおりおり引なして、それが音をきけば、ここちもすがすがしくおもほゆ、その鈴の歌はとこのべにわがかけて、いにしへしぬぶ鈴が音のさやさや」とその命名の意味を述べていますが、その美しき音色は神人共に和ませるものということができます。

ご参拝の際は、先ず鈴を鳴らして、二礼二拍手一礼の作法でお参り下さい。

古事記編纂1300年

古事記といえば、誰もが一度は耳にしたことがある古典だろう。

奈良時代に皇位継承の記録や神話、伝承に間違いが多いことを嘆いた天武天皇が、それを正して家来の稗田阿礼（ひえだのあれ）に読み習わせた。

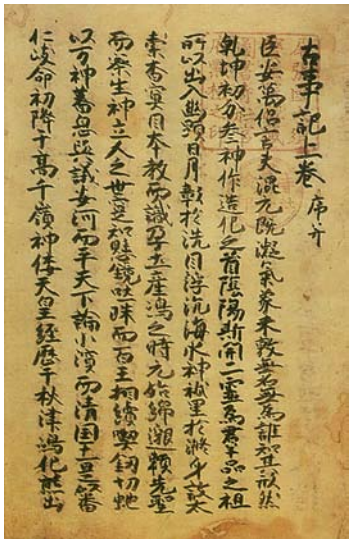
天武天皇の死後、遺志を継いだ元明天皇が文人の太安万侶（おおのやすまろ）に命じ、書物として和銅五年（七一二年）に献上させた現存する日本最古の歴史書である。

平成二十四年、その「古事記」が編纂されてから、千三百年を迎えた。

「古事記」は上・中・下巻の三巻から成っており、「因幡の白ウサギ」や「山幸彦と海幸彦」など、古くから多くの人たちに親しまれてきた話も多いが、その上巻（かみつまき）は、日本列島の成り立ちと国造りが語られ、国譲り、天孫降臨を経て、第一代神武天皇誕生までの日本の「神話」が記されている。

「古事記」に登場する神々はとても大らかで喜怒哀楽に富んでおり、現代社会に生きる私たちを惹きつけてやまない。多くの神社で祭神としてまつられ、今日に至るまで日本の宗教文化と精神文化に多大な影響を与えている。

最近ではマンガや解説されたものなど一般や子供たちにもにも読み易く工夫されて、書店に並んでいるので、この一三〇〇年を契機に、古事記を紐解いてみては如何であろうか。



真福寺本
古事記の現存最古の写本。応安四年（一三七一～一三七五）の書写

祭事暦

十月二十日（土）
鶴崎神社秋季大祭【供膳祭】［午前十時］
八幡神社秋季大祭［午後五時］（露店あり）

十月二十一日（日）［午前九時］　神幸祭

十一月中　七五三祈祷

十一月二十三日（金）［午後二時］
新穀感謝祭

一月二日（水）［午後二時］　年始祭

毎月一日［午前九時］　月次祭

※月次祭はどなたでも参列出来ますので、お誘い合わせ参拝下さい。

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております。

◆初宮詣・交通安全・厄除・安産・家内安全・当病平癒・その他

◆地鎮祭・上棟祭・家移清祓・宅神祭・神葬祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。